【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】（中学校）

都道府県名	富山県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	氷見市立西條中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	４	４	１	１２	
生徒数	９９	１４６	１３３	２	３８０	２４

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

数学科の少人数指導において、生徒一人一人の「確かな学力」の向上を図るには、指導をどのように工夫すればよいか。

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・１年・数学
　中学校の数学科は、生徒の理解の程度に差が出やすい教科であり、その学習を始めるにあたり、内容の理解、表現・処理の習熟をより確かなものにするため。
・３年・数学
　生徒の理解度に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

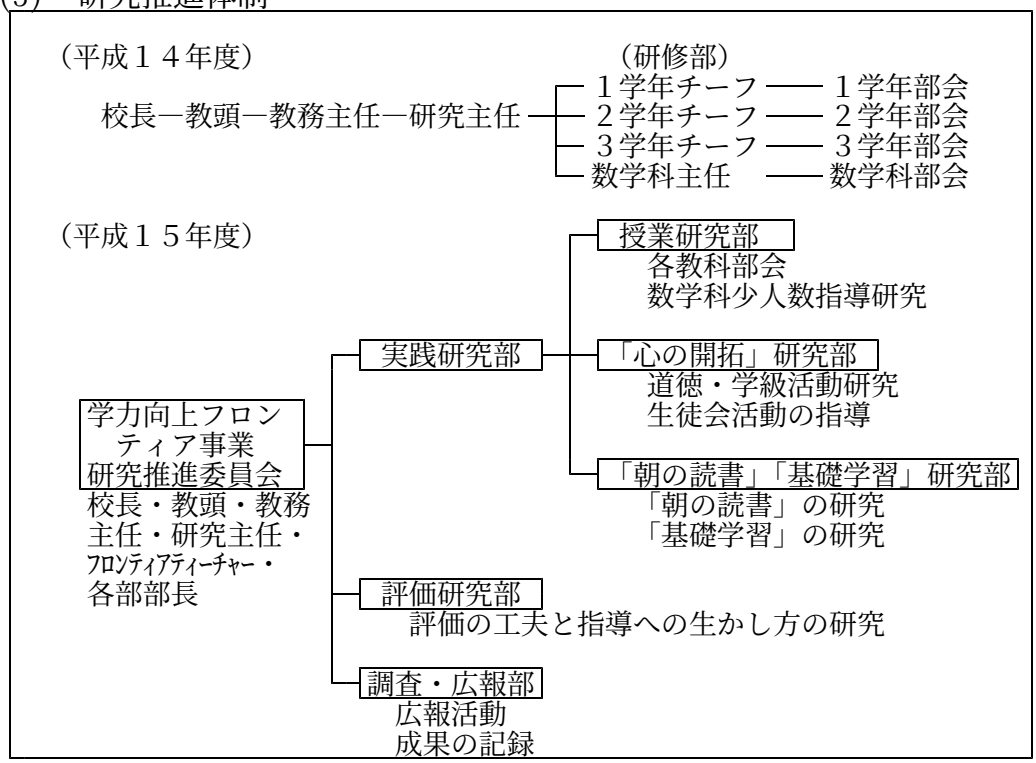
平成14年度	○ テーマ 数学科の少人数指導において、生徒の理解や習熟の程度に応じた指導はどうあればよいか。 ○ 研究の見通し（仮説） 数学科の少人数指導において、生徒の習熟の程度に応じた課題や教材を与えることによって、学力をより伸ばすことができる。 ○ 研究の内容・方法 ① 研究内容 ・ 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫 ・ 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 ・ 生徒の学力の評価の在り方およびそれを生かした指導の改善 ② 研究方法 ・ 数学科において、２・３学年の各学級を２つの学習集団に分け、少人数指導を実施する。それぞれの学習集団では、一斉指導、グループ指導、個別指導等を適宜取り入れ、個に応じた指導を展開する。 ・ 数学科の少人数指導において、生徒の習熟の程度に応じた課題や教材を準備できるように、教材の作成・開発に努める。 ・ 数学の実用的な面をクローズアップしたり、興味・関心を喚起するような事象を提示したりするなどの啓発的な講演会を開催する。 ・ 学力の評価の在り方を研究するとともに、それを指導に生かす方法を工夫する。 ・ 研究成果の累積を図り、生徒の学力向上の様子を検討・確認する。

	○ テーマ 数学科の少人数指導において、個に応じた指導を行うためには課題や教材、指導法をどのように工夫すればよいか。 ○ 研究の見通し 数学科の少人数指導において、補充的な学習の機会をもち、個に応じた課題や教材を与えながら指導することによって、学力をより伸ばすことができる。 ○ 研究の内容・方法 ① 研究内容 ・ 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫

平成15年度	・　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発と指導の機会の拡充 ・　生徒の学力の評価の在り方およびそれを生かした指導の改善 ②　研究方法 ・　数学科において、少人数指導を実施するための学習集団の分け方を見直し、生徒の習熟の程度に応じた指導をより効果的に進める。 ・　数学科の少人数指導において、生徒の習熟の程度に応じた課題や教材を準備できるように教材の作成・開発に努めるとともに、必要に応じて補充的な学習を行う機会をもつ。 ・　学力の評価の在り方を見直すとともに、それを指導に生かす方法を工夫する。 ・　研究成果の累積を図り、生徒の学力向上の様子を検討・確認する。

平成16年度	○　テーマ 家庭と連携して個に応じた学習法を身に付けることができるようにするには、どのように指導すればよいか。 ○　研究の見通し 教師が個に応じた家庭学習を支援することによって、学校での学習で養った力をより効果的に伸ばすことができる。 ○　研究の内容・方法 ①　研究内容 ・　個に応じた家庭学習の支援の仕方 ・　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発と指導の機会の拡充 ・　生徒の学力の評価の在り方およびそれを生かした指導の改善 ②　研究方法 ・　数学科において、少人数指導を実施するための学習集団の分け方を見直し、生徒の習熟の程度に応じた指導をより効果的に進める。 ・　生徒の家庭学習の実態をとらえながら、家庭学習の在り方を研究するとともに、継続的に指導・助言を行う。 ・　数学科の少人数指導において、生徒の習熟の程度に応じた課題や教材を準備できるように教材の作成・開発に努めるとともに、必要に応じて補充的な学習を行う機会をもつ。 ・　学力の評価の在り方を見直すとともに、それを指導に生かす方法を工夫する。 ・　研究成果の累積を図り、生徒の学力向上の様子を検討・確認する。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の成果及び今後の課題

１．研究の成果

①　数学科において、第３学年は、２クラスを習熟の程度によって、３集団に分けた少人数指導を実施した。（ 昨年は、第２学年の各クラスを習熟の程度によって２集団に分けて、少人数指導を実施。） 教師が生徒の実態に応じた課題提示や支援を行う機会が増え、生徒の学習への意欲が高まり、教師への積極的な質問が増加している。

・　県中教研学力調査平均点について（数学科）

平成１４年度	第２学年	４月	55.6点
		１１月	62.1点　（6.5点上昇）
平成１５年度	第３学年	４月	68.6点　（6.5点上昇）
		１１月	53.3点　（15.3点低下）

調査問題の難易度の影響もあるので一概には言えないが、第３学年になってからの伸びが少ないと考えられる。

②　数学科において、第１学年は、各クラスを２集団に分けた少人数指導を実施した。１学期のみ等質に分け、２学期以降は習熟の程度によって分けた。理解が遅い生徒への指導の効果が表れつつある。

・　県中教研学力調査平均点について（数学科）

平成１５年度　第１学年　１１月　75.5点

③　第３学年の選択数学科、毎日の基礎学習、放課後の補充的な学習などの機会をとらえ、既習内容を復習し、基礎・基本の定着を図ることができた。

２．今後の課題

①　基礎・基本をしっかりと定着させ、また、学力を最大限に伸ばすために、家庭学習の実態をとらえ、個に応じた家庭学習の在り方を探る。

②　学力向上についての１つの評価として、県中教研学力調査での平均点の推移を見ているが、その素点だけでなく、県平均との比較や偏差値について考察を加えなければ、学力向上の様子を的確に測定することができないと考えられる。

③　校区の小学校と連携し、互いに学び合いながら生徒の学力向上を図る。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

本校の評価研究部が、１・２年生を対象に信頼性の高い標準テストを実施し、学力向上の動向を測定したり、学習内容の定着の様子を分析したりする作業を進めている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

①　平成１４年度は、研究会、説明会等を開催しなかった。

平成１５年度は、氷見市教育大会の折り、第１学年数学科の少人数授業を公開したが、高岡地区の中学校のフロンティアスクール等にも案内を出して、参観できるように配慮した。説明会は開催しなかった。

平成１６年度は、研究発表会の開催を計画している。（２学期ころ） 授業研究会、研究成果の発表等を行いたいと考えている。

②　本校のＨＰを作成中であるが、その中に学力向上フロンティア事業に関するコーナーを盛り込む予定である。

【新規校・継続校】　１５年度からの新規校　✓ １４年度からの継続校

【学校規模】　３学級以下　４～６学級　７～９学級　✓ １０～１２学級　１３～１５学級　１６学級以上

【指導体制】　✓ 少人数指導　✓ Ｔ・Ｔによる指導　その他

【研究教科】　国語　社会　✓ 数学　理科　外国語　音楽　美術　技術・家庭　保健体育　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　✓ 有　無

ひ　み　しりつ さいじょうちゅうがっこう
氷見市立 西條中学校　　〒 ９３５－００３１
富山県 氷見市 柳田 ３２２３番地

学級数 １２　生徒数 ３８０　教員数 ２４　　（ＴＥＬ）０７６６－９５－１３１５
（ＦＡＸ）０７６６－９５－１３１４

１　学力向上フロンティアスクールの指定（文部科学省）　平成１４～１６年度（３年間）

２　平成１５年度の取り組みについて

研 究 主 題

生徒一人一人の「確かな学力」の向上を図るには、指導をどのように工夫すればよいか。

・　個に応じた指導の工夫
・　学ぼうとする気持ちへの働きかけ

※　特に、数学科における取り組みを中心に授業研究を行った。

研究推進体制（研究の進め方）

学力向上フロンティア事業研究推進委員会
校長・教頭・教務主任・研究主任・ﾌﾛﾝﾃｨｱﾃｨｰﾁｬｰ・各部部長

- 実践研究部
  - 授業研究部
    - ①　数学科における少人数指導の実施とその工夫
    - ②　数学科におけるＴＴの実施とその工夫
    - ③　各教科における「個に応じた指導」の実践
    - ④　選択教科における補充的な学習の実施
  - 「心の開拓」研究部
    - ①　道徳・学級活動の時間における生徒の学力向上への支援
    - ②　生徒会活動における学力向上への支援
  - 「朝の読書」「基礎学習」研究部
    - ①「朝の読書」の効果的な運用の検討
      「基礎学習」の効果的な運用の検討
- 評価研究部
  - ①　学力向上の評価の工夫と指導への生かし方の検討
- 調査・広報部
  - ①　ホームページの充実
  - ②「学力向上」通信の発行
  - ③　講演会の企画
  - ④　学力向上の掲示コーナーの設置
  - ⑤　研究成果の記録（資料・写真・ビデオ等）

指導体制の工夫

数学科の指導体制
（第１学年）
各クラスを２集団に分けた少人数指導（習熟度別）
（第２学年）
各クラスともＴＴ
（第３学年）
２クラスを３集団に分けた少人数指導（習熟度別）

指導方法の工夫

①　基礎・基本の確認とその定着
②　個に応じた指導を行うための課題提示の工夫と教材の開発
③　補充的な学習の機会の拡充
④　道徳・学級活動・生徒会活動から学習への意欲化を図ること

評価の工夫

①　県中教研学力調査の結果の分析
・　学力向上の様子の把握
・　分野ごとの解答状況の調査
②　信頼性の高い全国的な標準テストの実施と学力向上の様子の分析

成果と課題

・　数学科少人数指導等の取り組みの成果が、学力調査等の結果の伸びや、学習への積極的な態度などによって、とらえることができた。
・　生徒の家庭学習の実態をとらえ、個に応じた家庭学習への支援の在り方を探っていきたい。